

音楽劇「海はしる、豚物語」3月5、6日開催

音楽劇「海はしる、豚物語」が3月5、6日に市民芸術劇場響ホールで開催されます。

音楽劇「海はしる、豚物語」は平成15年に初演されたミュージカル「海から豚がやってきた」のリニューアル舞台。ハワイ、ロス公演後、平成18年の世界のウチナンチュ大会公式公演を最後に10公演が行われていました。

今作は、脚本を世禮トオル(うるま市)、音楽を赤嶺康(うるま市、養豚農家)が担当。本市に本拠を

置く劇団から上江洲朝男(演劇集団「創造」、安里安隆(演劇集団「こかげ」)、大嶺淳(劇団C.A.T)ほかが出演、伊波華織(F.Mうるま)、宮良

沖縄を救ったハワイの豚の物語 陸揚港はホワイトビーチ、本市出身者が輸送に貢献

「海はしる、豚物語」は、大戦で壊滅的な被害を被った沖縄を救おうとハワイの県系移民が送った550頭の豚の史実を舞台化したもの。

沖縄の惨状は、県系二世米兵らの

千広(与勝高校2年生)、ていだぬふあー童唄会ほか音楽で華を添えます。

報告によつてハワイの県人に伝えられます。

これを受けてハワイ各地で救済運動が立ち上げられ、衣類、薬品、食糧などの救援物資送付が次々に行われました。そのさなか、豚輸送を訴える男が現れました。男は中国の古諺を引き合いに豚が沖縄を自立復興へと導く唯一の釣り竿なのだ主張します。かくして沖縄に豚を送るプロジェクトが発足します。それが「布哇連合沖縄救済会」です。

豚購入資金のカンパをラジオでハワイ全島に呼びかけたのは、平安座島出身の仲間勝美でした。自作の唄「うるまメロデー」を流し、方言なまりの抜けない日本語で粘り強く募金を訴えました。

1年もたたないうちに5万ドルの資金が調達されます。豚輸送付き



豚付き添い人の7人と事務局

添い人に選ばれたのは7人。そのうち4人がうるま市の出身。字饒辺出身の山城義雄(獣医師)、石川出身の島袋眞栄、字具志川出身の安慶名良信、字川田出身の上江洲易男でした。このプロジェクトには当時沖縄県知事だった志喜屋孝信(具志川出身)も輸送の手配に奔走していました。7人は36人の陸軍兵士とともに太平洋を渡りますが、2週間と予定された航海は思わぬ伏兵によって先延ばしをされます…



【2004年名護市民会館公演ラストシーン】